



第 66 号
 発行
 小松同窓会本部
 〒923-8646
 小松市丸内町二ノ丸15
 石川県立小松高等学校内
 天守台編集委員会
 TEL (0761) 21-6330

昭和54年3月私は小松高校を卒業しました。高校時代の思い出といえば、体育祭で応援団に入り当時流行していた世良公則とツイストの「宿無し」の歌に合わせて応援をしたことや、昼食前に空腹に耐えかねてこっそり抜け出して「亀の家」でたぬきうどん何故か小松高校生はこれを食べていたことなどが思い出されます。どちらかというと余り真面目な高校生ではなかったようです。そんな私ですが、3年生のころ増田金一校長先生の面接を受けて励ましのお言葉をいただき、私自身たいへん感激したことを記憶してい



年頭所感
『地域社会とともに成長を』
 小松同窓会金沢支部長 兼
 北國フィナンシャルホールディングス
 代表取締役 **中田 浩一** (高31回)

が、その加能合同銀行は小松市安宅町出身の北前船廻船問屋を営んでいた米谷家の米谷銀行が母体であったため、私たち北國銀行のルーツは小松市にあると言えます。今は金沢に本社を置いていますが、北國銀行の発祥の地は小松であり、経営層にも多くの小松出身者が今の頭取も小松市出身です。が携わってきています。また、小松中学出身で第四高等学校、東京帝国大学を卒業され日銀総裁になられた新木栄吉氏には戦災で北國銀行大阪支店が焼失した際に同郷の縁で支店復興に大変お世話になったことを伝え聞いてい

ます。何の話題であったかなど勿論覚えていませんが、誠実さや正直さ、倫理規範の気持ちをもって地道に継続することの大切さを教えていただき、生活を見直す良い機会をいただけたのではないかと思います。

現在勤務している北國フィナンシャルホールディングスは北國銀行を中心とした11社の子会社を抱える金融持ち株会社ですが、小松市との縁が非常に深い銀行です。歴史を振り返ると北國銀行は昭和18年12月に加能合同銀行、加州銀行、能和銀行の三行が合併してできたのです

ます。市内のお取引先との関係でも、古くからメインのお取引先が多くて良い関係でお付き合いをさせていただき、発祥の地との繋がりを大切にできたことが今も生きています。

そんな北國フィナンシャルグループには、小松高校の出身者が数多く入社しています。令和5年10月末現在のグループ従業員数約1,900人の出身高校を調べたところ、小松高校出身の在籍者が143人で出身高校別でトップでした。金沢一丘高校でもなく、金沢N水高校でもありません。非常にうれしい話です。

これも「自主自立、文武両道の精神」で高校時代を過ごして地域社会の発展に寄与したいという意欲のある人材が当社に入社してくれるからだと思います。

さて、令和の時代に入り金融業界は大きく変化しました。特に地方銀行を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、地方における少子高齢化と人口流出が進む中、地域経済の縮小を食い止めることが大きな課題となっています。そこで私たち北國フィナンシャルグループは単にご融資で資金需要にお応えするだけでなく、お取引先様の様々な悩みや課題解決を行うコンサルティング業務を始めたり、資産運用の分野では個々のライフプランに合わせて着実な資産形成となるお客様本位の運用をご提案したり、キャッシュレスの分野でもデビットカードの普及とブロックチェーンを利用した地域通貨もスタートさせました。これらは全て地域経済の生産性を向上させて地域を活性化し、イノベーションを起こしたいの思いからの取組みです。今の時代は知識やアイデアを売る時代であり、このような新しいビジネスモデルを支える原動力は風通しの良い企業文化と社員のマインドセットにあるといっても過言ではありません。そのため組織と人材のブラッシュアップを続けていくことが、地域を成長に導くことに繋がると信じています。

小松高校は時代の変化に対応しながらも伝統と品格を重んじる素晴らしい高校です。同窓会金沢支部長として引き続き小松高校の発展と皆様のご活躍をお祈りいたします。

ホームスクール カミングデー

八木 由明 (高34回)



卒業から42年…還暦を迎えた高校34回卒業生51名が久々に母校に集い、ホームスクールカミングデーに臨みます。講師を務めていただくのは、3年5組担任の竹川正則先生です。

11月3日、この日は気温27度、季節外れの夏日となりました。ピンクの館こと記念館は、多くの展示物があり、先輩たちが紡いできた歴史の重みを



実感します。和田学小松同窓会会長、

米口一彦校長先生のご挨拶に続き、いよいよ特別授業のスタートです。

竹川先生は大原学園金沢校の顧問として、今も教育現場に携わっているとの事でした。留学生も多く文化・慣習の違いや若い人と接することが何より楽しいと生き生きと話す通り、昔と変わりがなく若さを保っています。

さて授業です。テーマは「私たちはどう生きるのか」

「えっセンセイ！英語じゃなくて倫理？」と戸惑いながらも、高校時代は絶対なかつたくらい真剣に耳を傾けました。大原学園での日常などを交えながら、笑いの絶えない楽しい授業でした。昔の授業の記憶はないものかと考えてみましたが、まったく脳ミソが反応せず(泣)、この日の授業がおそらく一番記憶に残るんじゃないかと思うくらい、ココロに染み渡るものでした。



思い起こせば3年の担任時代、先生はまだ20代！そして今年70歳。古希を迎えてもなお、学ぶ事の大切さを教えていただきました。

モンゴメリ著「赤毛のアン」の名言、「道の曲がり角」を英文で紹介し「やっぱり英語ですよね」とうれしく思いながら授業は進んでいきます。スタイブ・ジョブズやキング牧師のスピーチにも言及されていました。

私たちは還暦、先生は古希。六十は耳順、七十は従心との話が進み、「今度は論語か」とツッコミも入れながら、あつという間に終了時間となりました。

「異なる価値観を大切にしないさい」「自分で壁を作るな」「今が一番楽しいと思いなさい」。どれも金言でした。

「次の曲がり角には何があるかな？」ワクワクしながら生きていく事の素晴らしさを教えていただいた特別授業でした。

そついう事ですよね、竹川先生。



校歌斉唱の後、福島知朗同窓会副会長から閉会のご挨拶があり、その後は天守台まで散策して記念撮影。夜は能美市のほか4組・佐々木茂先生、7組・村本剛彦先生もお迎えして同窓会を開きました。総勢93名が歓談の輪を広げ、楽しい一日の締めくくりとなりました。

翌日は竹川先生も交えてのゴルフコンペへと続き、一連の行事は終了しました。最後に、今回ご尽力いただいた学校関係者や小松同窓会の皆様にあらためて御礼を申し上げて、回想記といたします。

(了)

金沢小松同窓会報告

金子 慎一 (高38回)



2023年10月27日、金沢ニユーランドホテル銀扇の間、金扇の間に小松高校同窓会金沢支部の総会および懇親会が開催され、久しぶりの開催にもかかわらず、142名の母校愛があふれる同窓生が集まりました。当日は少し肌寒く、小雨模様の天気でしたが、開始時刻までには雨もやんで、参加者が続々と集まって無事開催となりました。

司会進行は、上坂典子さんが務め、浜崎英明支部長の開会のあいさつでは、新型コロナの影響で長期間にわたる開催ができなかったこと、本日はたくさんのお出立者があること、再会できたことへの感謝の気持ちが述べられました。



した。そして、多忙な中来てくださった来賓の皆様に対するお礼の言葉があり、会場は久しぶりの開催に懐かしさと温かい雰囲気にも包まれ、総会の開始となりました。

総会では宮本外紀幹事長から、最近の活動報告や決算報告が行われ、そして、役員の変更があり、中田浩一氏が新支部長に選任され、新たな役員も決議されました。新役員の就任挨拶では新体制での決意などが述べられました。

ここで来賓の紹介があり、小松高校同窓会会長 和田 学様、小松高等学校校長 米口 一彦様が紹介され、米口校長より、小松高校の近況についてお話をいただき、また、祝辞を頂戴しました。

真宗大谷派宗円寺住職として活躍の一葉真さんが登壇しました。講演のテーマは「人間はなぜ争いをやめられないのかー仏教の視点からー」でした。講演では、2016年に起こった相模原事件(障害者福祉施設での殺傷事件)から学ぶ教訓や、ベトナム戦争での兵士の経験を出版したアメリカのアレン・ネルソンさんの著書「ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか?ーベトナム帰還兵が語る「本当の戦争」ー」からその体験談が語られ、「人間の争い」についての考えをお話いただきました。一葉真さんの深い仏教の知識と小松高校出身者ならではの視点から、「人間の争い」について熱く語られました。会場は共感しながら学びを深めました。また、王舎城の悲劇(今から2500年前のインドでのお話)から、「慚愧」の心の大切さに触れ、会場全体が深い感銘を受け、講演が終了しました。

講演が終了すると、会場を金扇の間に移動し、懇親会が開始されました。小松高校同窓会会長和田学様のご挨拶と乾杯の発声で、会場は一気に笑顔と活気に包まれました。久しぶりの開催で旧友との再会に歓声が上がリ、食事やお酒を交えながら、昔話や近況を語り合うなど楽しい時間が過ごせたと思います。中締め挨拶では、新支部長中田浩一さんより、この素晴らしい日を共有できたことへの感謝の言葉があり、笑い声と友情に満ちた懇親会は、盛大に幕を閉じました。

今回の総会ならびに懇親会の準備や当日のサポートをいただいた役員や学年幹事の方、また、たくさんの方にご出席をいただき、誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。



新役員

支部長	中田 浩一 (31回新)
副支部長	河合 宜子 (17回)
副支部長	林 義也 (22回新)
直前支部長	浜崎 英明 (25回新)
幹事長	金子 慎一 (38回新)
会計監事	山本 孝 (26回新)
会計副監事	南 淳子 (33回)
文書管理担当	新谷喜久夫 (28回新)
監事	大土 明久 (21回)
監事	宮本 外紀 (23回新)

関東同窓会

網野 久美子(高4回)

「ラ・小松」

来月8月、東京帝国ホテルで関東小松同窓会が久々に開催される。元社長であった故丸徹三氏は旧制小松中学の2期生であるが、第一回同窓会の幹事の中に同ホテル勤務の方がおられた御縁で、初回会場ときました。当時の私は弱輩ながら同窓会の創設に携わることができ、幹事の方々の母校への溢れるばかりの熱愛を今もまざまざと思い出す。

さて、関東小松同窓会は、コロナ禍による延期に次ぐ延期で、今回は5年ぶりの開催となる。今年私は卒業を迎えたが、5年前に高4回生による「ラ・小松」にピリオドを打った。この年は図らずも帝国ホテルで関東小松同窓会が開催される年にあたり、私たちの学年からは13名が参加し、そこで「ラ・小松」は長年の幕を下ろした。

卒業以来集まりはもっていたが、35才から毎年開催することになりその中で



20冊の「ラ・小松」



散策の会のスナップ(昭和公園コスモス畑)



同窓会(19集発刊記念)

「ラ・小松」は創刊された。年に一度顔を合わせるだけでなく、昔のようにもって語り合いたいとの思いからであった。原稿集めが苦しい時代もあったが、皆の協力も高まり、19集や20集には50余名が寄稿している。この度、最終号を同窓会館に納めることができ感謝無量である。今は亡き執筆者の友人たちもさぞかし喜んでくれることと思う。

「ラ・小松」という名称は、旧制小松中学校の歌詞からの引用で誰かが提案され万場一致決定した。皆が集う時には在学中に誕生した高校々々と共に必ず歌う。肩を組み合いながら歌う姿はいつも若々しく、とても微笑ましく感じられた。

「ラ・小松」ではその他、毎月関東一円を巡る散策の会や、低山ハイキングの会もあり、私も参加の会に参加していた。きめられた場所に集まり一日を共にし、友情

を深め合った。12年間で百ヶ所は歩いたと思う。ここに初回の頃の行き先を紹介させて頂く。

- 1月 ニコライ堂から神田明神
- 2月 神楽坂から早稲田大学周辺
- 3月 横浜三溪園で観梅
- 4月 飛鳥山公園のお花見(都電)
- 5月 等々力渓谷、九品仏浄真寺
- 6月 佃島界隈、聖路加ガーデン
- 7月 NHKスタジオ見学
- 8月 夏季お休み
- 9月 お台場公園(ゆりかもめ)
- 10月 ラ・小松会
- 11月 庭園美術館(魯山人展)
- 12月 反省会と来年の予定(人形町)

さて、私たちは終戦の翌年女学校に入学しその途中で学制改革となり、小松高校併設中学校となった。そして幼稚園以来の男女共学であった。「男女7歳にして席を同じゅうせよ」との時代である。思春期の私たちにとっては大きな出来事であったが、新時代の息吹きの中で、中学、高校を共に過した歲月は、いろいろあり忘れ難いものがある。

コロナが流行して以来、友人たちと会う機会はめっきりなくなりましたが、スマホや手紙で交流はつづいている。そして文明の利器をしても届かぬところに旅立ってしまった友たちを偲び、同窓会や散策の折のスナップ写真を眺め、20冊の「ラ・小松」誌を手元に、懐かしく読み返す昨今である。

それにしても人生百年時代ともいわれているが、私は健康に恵まれ元気に過せることに感謝している。太平洋戦争の最中、小学生であり、戦後の混乱期中、高中生であったが、文集中にも都会からの疎開者や大陸からの引揚者であった友人の、戦中戦後の悲惨な体験

記もみられる。

今、東欧や中東などの戦火は消えそうにない。テレビの中から戦火に巻き込まれた罪なき子たちの大きな目で、じつとみつめられると胸が震えてくる。世界から戦争や紛争がなくなり、この子たちに一日も早く平和が訪れますように、私は心から祈っている。

(2023年10月記)

23回同窓会

小松23会事務局長

梶谷 寛(高23回)

久しぶりの小松23会同窓会は盛り上がりました。

私たちの小松23会は4年ぶりに小松23会同窓会を令和5年9月30日(土曜日)に粟津温泉(おびし荘)で開催しました。

3年間、コロナの影響が大きかった。でも、ゴルフ愛好会の小松23グリーン会は、毎年、春と秋に定期開催をしていました。

その日は、遠方から来られるゴルフ参加者と、地元の方参加者とゴルフに参加しない方達と合同でミニ同窓会を毎年継続してきました。

ちなみに、今年は春の4月29日にゴルフコンペ終了後、夕方から「欧風ピストドライブ」で開催した所、27名が参加して、盛り上がりました。

事前に予約した参加希望者の欲求に合わせて、小松市内のカラオケのないシックな店と、カラオケのあるちょい高そうな店と、クラブに近いラウンジ風の店に繰り出し、2次会は更に盛り上がりしました。



令和5年9月30日 小松23会同窓会 おびし荘

今回は、それを踏まえて、山上会長含め、クラス幹事が何度か、会合を開き、返信ハガキと同窓会案内文を封筒に詰め込んで、住所の判る方に全て郵送しました。配送封筒は320通に上りました。4年も経過していたので、宛先不明の返信封筒が10通以上有りました。結果的には、返信葉書が少なく192通でした。

参加者人数が当初は50人弱だったので、4月29日の様に参加者を増やすためにした方法、それは、3年時のクラスの縦串ラインに(各中学校の有志に連絡する横串ライン)を刺して誘い合うやり方でした。その結果、58名が参加すると返答が有りました。

残念ながら、当日に病気や身内の不幸で5名が欠席して53名が粟津温泉(おびし荘)の小松23会同窓会に参加しました。女性の参加は9名ありました。

同窓会の内容は、東出憲司司会者の下、最初に山上正彦会長が挨拶をし、梶谷寛事務局長が乾杯の発声をしました。お酒が入れば皆、高校時代にタイムスリップします。お互いの名前と顔が一致せず(そうか、お前なのか)と

笑いあったり、LINE友達になったり、携帯電話番号交換したりetc。中盤は関東小松23会を代表して東博光さんが詩吟をしてくれました。

縮みの挨拶は南盛二會計が、突然、私が出ると言い出して、彼の持論の講釈を述べて盛り上がりました。最後は全員が関東一本締めで締めました。

2次会は1階のエポックで、カラオケバトルし、其のあと、5階の麻雀ルームをリザーブした6名が学生時代に鍛えた腕を発揮し、私も夜中の3時まで付き合いました。(明日はゴルフなのに)。又、部屋でする健康麻雀グループも1組ありました。

その他のメンバーは集合部屋で更に飲み交わしましたと思います。

翌日は、朝食を済ませ、楽しい思い出を胸にそれぞれの帰途につきました。

ゴルフ組は近くの木場の小松カントリークラブで、8名が、秋晴れに恵まれた中、ゴルフラウンド楽しみました。来年は4月7日です。片山津日本海コース。この同窓会を機に、毎年、秋に小松23会同窓会をする事になりました。

特殊だと思われませんが、関東には関東小松23会もあり、毎年、彼らは、年に3回ぐらい同窓会をします。山登りや、温泉ツアーもしています。私も何故か、たまにその会にオブザーバー参加しています。11月28日も新大久保で、お昼から韓国料理店で有志8人が親睦宴会をしました。

今後、私達小松23会は、次回からの案内は各自のメールアドレスにメールする事に決定しました。メール登録者は現在110名です。感じたことは、同窓会の参加者を増やすのはお互いの声掛け誘い合いが大事だと思いました。



松高卒業50周年記念 〈青春回帰〉 26回生同窓会開催

山田 勝裕(高26回)

それにはゴルフコンペや麻雀会や飲み会が大事なファクターだと思えます。老後をいかに楽しく、美味しいものを食べて、元気で、気の合う仲間と語り、いかに、有意義に過ごせるかが、私達70歳過ぎの小松23会同窓会ネットワークです。これからも大事にしていきたいと思えます。

令和5年11月25日、我々26回卒業生の同窓会が開催されました。これまで、定期的に開催されていた同窓会も、コロナ禍で予定通りにはならず、今年ならばと、加えて、高校卒業50年という節

目の時でもあるからと、開催への運びとなりました。

50年といえば半世紀、時代も社会も日常生活や価値観も大きく変わってきました。そして、残念ながら早くして向こうの世界に逝ってしまった仲間も(合掌)。変わったといえ、我々の容姿も様変わり。男性諸氏は、その多くが体型も髪型もどちらかといえば後退あるのみです。あの頃はビートルズやフォークシンガーたちの長髪スタイルが全盛期でその流行に乗っていたはずなのに。一方、女性陣はと言えば、今も元気はつらつ。お化粧のりもいいのかまだまだ魅惑の時を走っているような感じもしました。(ちよつと言いつ過ぎかも。)

さて、会場は小松同窓会総会が行われたサイエンスヒルズに90名が集合。代表幹事の川北寛志氏のあいさつにはじまり、あつという間の2時間で50年の時の流れを凝縮したような有意義な同窓会となりました。2次会は近くのカフェへみんなで大移動。これまたあつという間の2時間。次回開催でまた集まることを約束しながらの閉会となりました。26回生バンザイ!!最後に一句「ハゲ・しわも「面影残す 同窓会」



高校32回 同窓会の報告

代表幹事 鈴木利也 (高32回)

令和5(2023)年8月10日に卒業して6回目の同窓会をホテルアローにて開催しました。

毎回、オリンピック年に開催していたので、本来なら2020年の予定でした。みなさん、ご存知のとおり新型コロナウイルスがまん延し、順延せざるを得ない状況で、ようやく前回2016年から7年ぶりの開催となりました。

第1回から5回までは文系クラスが持ち回りで1クラスずつ担当していましたが、いままで理数科を除く理系クラス(6~8組)の同窓会出席率が極めて低く(9組の理数科は3年間一緒だっただけにまとまりがありますねえ)、文系クラスからは大丈夫か？



集合写真



校歌斉唱



恩師に記念品

との心配の声が寄せられ、理系2クラスずつ幹事を担当してみてもどうかということになりました。

結局打ち合わせに文系クラスの代表者にも集まってもらい、人集めにLINEグループを使ってみようなどいままでのアナログ方式ではない新しいアイデアで、最終的には宿泊の同窓会にもかかわらず、前回とほぼ同じ91名の同窓生と恩師は宮脇鉄心先生、多保田正廣先生の二人をお迎えして楽しい宴となりました。

LINEの効果があつてか北は青森県から南は島根県まで県外の同窓生もたくさん集まってくれました。恩師の参加が少ないのは仕方ないことですが、前回から7年の歳月は先生方もそれだけ歳を重ねていて、また、自分たちも還暦を過ぎたいい歳になつてしまつたなあと改めて感慨深いものがありました。

同窓会では何をしようかといろいろと考えてはみたものの「何もしない方がいい」という結論になり、クラスごとステージで記念撮影する以外はほとんど歓談に時間をあて、積もり積もつた昔話や近況報告などあちこちで賑やかな会話に花を咲かせていました。宿泊組はさらに二次会でただただ雑談であつたという間に時間が経ち、久しぶりの同窓会もお開きとなりました。次回の同窓会も理系クラス、代表幹事も決まつたので彼に任せて次の同窓会もきつと楽しいときを過ごせると思うとすでにいまから楽しみ。

「断捨離...」

小松同窓会副会長

山本 義之(高29回)

齢(よわい)65になる。前期高齢者入りらしい。なのに、また肩書が増え続けている。自分で自分を忙しくしている。そろそろ、断捨離を考えなければ...

新聞記者(中日新聞)は43年目を迎える。泣いても笑つても3月末でペンを置く。ここ十数年は論説委員兼編集委員をしているが、8月から金沢中日文化センター事務局長を兼務し、新講座の開設に奔走中だ。

名古屋から戻つた2013年、NPO法人まちづくり小松を設立した(現在も理事長)。お旅まつりでの着物イベント、木場湯での凧揚げまつり、小松のお土産として製造販売する航空自衛隊小松基地隊員給食カレーなどは認知度が高まつた。にぎわい創出の新規イベントも仕掛けているが、一丁目一番地の「住民自治の強化」は進んでいない。メンバーの高齢化も懸念され、若い世代への引継ぎを模索し始めている。

5年前、身近なSDGsの会「こえる17こまつ」を立ち上げた(共同代表)。プラスチックごみの削減をテーマに、啓蒙動画の上映を続け「マイボトルコンテスト」「海ごみアートをつくるうー」などを展開してきた。ネットワークを広げたいと思う。

国際交流活動も幅広い。小松アンガ

ルスク友好協会の役員(現副会長兼事務局長)を続け、14年がかりで小松市との友好都市提携にこぎつた。ロシアのウクライナ侵攻以降、交流活動はストップしているが、再開を望みたい。

小松市国際交流協会では本年度、市民交流部会長として楽しいイベントを企画運営してきた。JICAの青年研修事業では受け入れリーダーを務めてきた。外国人との交流は楽しいし、多文化共生の大切さを気づかせてくれる。韓国・大邱市の観光大使も6年目を迎えた。コロナが終わり、年間3回の訪韓というペースに戻つた。

高校卒業後、学年同窓会を組織した(永久幹事?)。ニコマツ会と名付けた。40年間、ゴルフコンペと旧盆、年末の懇親会を続けていく。数え66歳を祝う「緑寿」記念パーティーも開いた(2023年8月12日)写真。

小松同窓会副会長に就いて既に十数年が経つ。そろそろ潮時かもしれない...



小松同窓会総会報告

田上 好裕 (高38回)

令和5年7月6日、小松同窓会総会がサイエンスヒルズこまつにて開催され、300名超の同窓生が出席しました。令和2年2月頃から続いた感染症対策の影響もあり、今回は実に4年ぶりの懇親会付きの総会となりました。

今年度の幹事学年である高校48回の中島誠さん、松崎晶子さんが司会を務め、まず山田勝裕副会長(高26回)から開会の言葉がありました。



続いて和田学小松同窓会会長(高33回)より挨拶があり、九谷焼作家で人間国宝の人間国宝の吉田稔さん(高3回)が小松市名誉市民の称号を贈られたという大変喜ばしい報



告がありました。

この春から着任されている米口一彦校長(高35回)からは日頃の同窓会からの支援に対するお礼の言葉とともに学校の様子を各部活動の成績も交えてお話しいただき、コロナ禍が明けて文武両道に努力、活躍している生徒の様子をうかがい知ることができました。

続いて来賓として能美市長の井出敏明さん(高33回)、小松市長の宮橋勝栄さん(高50回)、関東同窓会会長である朝野勇次郎さん(高21回)、関西同窓会会長の中山雄二さん(高21回)、小松同窓会金沢支部長の浜崎英明さん(高25回)、富山同窓会会長の松田光司さん(高33回)が紹介されました。

衆議院議員の佐々木紀さん(高45回)からのメッセージ紹介の後、総会議案審議に移りました。令和4年度の決算、5年度の予算、新役員、各支部への支援を含む7つの議案すべて原案通り承認されました。

この後、浜崎小松同窓会金沢支部長より乾杯の発声があり、懇親会がスタートしました。会場のおちろこちろで再会を喜び合う光景が見られ、大変賑やかな宴席となりました。終盤には小松中学、県女、小松高校の順に流れる校歌を参



加者全員が立ち上がり声高らかに歌い上げました。また会場の設営・運営をいただいたホテルグランビナリオKOMATSU顧問の小松智子さん(高25回)より、新しい会場で工夫しながらのサービス提供とSDGsに配慮した食器類の説明がありました。

最後に朝野関東同窓会会長より来年8月18日(日)に予定されている関東同窓会総会の案内と共に万歳三唱があり、4年ぶりの総会・懇親会が閉じられました。

今回は久しぶりの総会・懇親会と慣れない会場での開催ということ、心配事が多かったのですが、300人を超える申し込みもいただき、幹事学年である48回期と次回幹事学年である49回期の方々のご協力でもりなく進行することができました。有難うございました。

令和4年度 小松同窓会 [会計決算書]

収入額.....4,568,806円
支出額.....4,257,495円
翌年度繰越額.....311,311円
(単位:円)

◆収入の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘要
会費	3,060,000	3,060,000	0	R3年度卒業生 306人×10,000円
繰越金	968,383	968,383	0	
同窓会運営基金	418,000	418,000	0	青雲の小径継続維持管理費
雑収入	123,617	122,423	-1,194	R3年度卒業生記念館等管理費、預金利息
計	4,570,000	4,568,806	-1,194	

◆支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	摘要
総会費	250,000	356,961	-106,961	総会諸費用等
卒業記念費	400,000	381,946	18,054	R4年度卒業生 卒業記念メダル
通信事務費	210,000	115,419	94,581	各諸行事開催案内、各委員会・理事会等案内送料等
渉外費	170,000	128,470	41,530	事務局電話料、新聞広告等
業務委託料	1,224,000	960,000	264,000	事務局業務年間委託料
会報事業費	500,000	461,730	38,270	会報「天守台」63・64号発行経費
記念館事業費	480,000	537,201	-57,201	ホームスクールカンニングデー開催経費等
記念館管理費	200,000	200,000	0	R4年度分記念館管理費積立
会合事業費	300,000	255,468	44,532	理事会・幹事会経費、他支部総会出席経費等
小松同窓会文庫事業費	0	0	0	
一般事業費	638,000	771,100	-133,100	青雲の小径維持管理費、モップ代、プリンターインク等事務用品購入代、青雲賞等
雑費	100,000	89,200	10,800	香典・生花代、同窓会同期会開催補助金等
予備費	98,000	0	98,000	
計	4,570,000	4,257,495	312,505	

令和5年度 大会出場・成績一覧表

部・同好会名	大会成績	部・同好会名	大会成績
運動部	【北信越高等学校総合体育大会水泳競技大会】 ☆全国総体参加 男子 100m自由形 木川友来……………優勝 200m自由形 //……………優勝	カヌー	500m ……………準決勝敗退 200m ……………6位 女子 WK-4 高野想子 500m・200m……………準決勝敗退
	【石川県高等学校春季弓道大会】 団体女子の部……………優勝 【石川県高等学校総合体育大会】 団体女子の部……………優勝		【北信越地区高等学校野球石川大会】 2回戦 小松 2-7 小松大谷 【全国高等学校野球選手権石川大会】 1回戦 小松 0-9 金沢 【北信越地区高等学校野球石川大会】 1回戦 小松 5-3 小松工業 2回戦 小松 9-6 金沢市立工業 3回戦 小松 2-3 遊学館 【石川県高等学校野球1年生大会】 予選 小松 7-6 小松工業 1回戦 小松 14-1 県立工業 準々決勝 小松 1-10 金沢
	【全国高等学校総合体育大会】 女子舵手付きクォドルプル 小松高校 (C: 坂上 S: 大杉翼 3: 吉原 2: 大岡 B: 西本) ………出場 女子ダブルスカル 小松高校 (S: 金田 B: 西塔) ………出場 女子シングルスカル 小松高校 (S: 太田 B: 東出) ………出場		野 球 【全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門】 石川県代表チーム 清水七星 ……………奨励賞受賞(ベスト8)
	【石川県高等学校総合体育大会】 男子 K-1 島田瑞規 ……………1位 男子 K-2 島田・吉田組 ……………1位 男子 K-4 笠巻・島田・南川・吉田組 …1位 女子 WK-1 高野想子 ……………1位 女子 WC-1 山本あい ……………1位 【国民体育大会】 男子 K-1 島田瑞規		かるた 【全国高等学校将棋選手権大会】 団体戦決勝 ……………準優勝 個人戦 宮森雄大 ……………準優勝

「天守台」編集委員会

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 学 校 職 員 | 委 員 長 | 副 委 員 長 | 委 員 |
| 松 田 | 沖 野 | 細 川 | 宮 浦 |
| 知 隆 | 信 一 | 千 鶴 | 誠 治 |
| (高 30 回) | (高 35 回) | (高 33 回) | (高 26 回) |
| 東 山 | 野 田 | 前 田 | 野 田 |
| 次 郎 | 和 博 | 洋 子 | 弥 生 |
| (高 22 回) | (高 34 回) | (高 12 回) | (高 26 回) |

編集室だより

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

令和6年を迎え天守台66号お届け致します。旧年は学年同窓会、支部会の復活開催も多くなり賑いの1年でした。コロナ禍も治まり、本年も同窓会皆様の一層のご活躍、ご健康を祈願致します。

これからも天守台委員会へのご寄稿、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。(東)

〔同窓会本部〕TEL:0761-21-6330
 メール:komatsudousoukai@gmail.com

ご住所の変更などございましたら、事務局までご連絡いただきますよう、よろしくお願いたします。

